

土・まち・みどり

通信 第 68 号

2017. 8. 3発行

NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS ◆5月のつどい ◆講演会報告「開かれた庭とは？」◆おくさわ今と昔
◆奥沢の歴史を訪ねて ◆フラワーアレンジメント講習会報告 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

5月のつどい

総会・ミニ園遊会報告

今年の総会・ミニ園遊会は5月13日(土)シェア奥沢で行われました。初めての大雨の中での開催でしたが、花苗の販売以外は、室内で済ませることが出来ました。

総会：当日の出席者は、本人出席25名(委任状122名で総会は成立)でした。例年通り2016年度の活動報告及び収支決算と2017年度の活動計画及び収支予算が、又監事の選任では遠藤肇氏の再任が、満場一致で承認されました。

報告事項として、中村修氏の理事就任及び、他の理事全員の再任を、全会一致で選んだこと報告しました。

活動面では堀内代表から、「みどりの街づくりガイド」完成の報告がありました。

ガイドの概要説明の後、ガイドをできるだけ地域の方々に配布する、又世田谷区の公的な場所、建設業者や不動産業者等に、お送りし奥沢の「みどりの街づくり」の理解と普及に努める。チラシボックスにガイドを入れて置き、関心のある方にとって頂くことにした。チラシボックスは当会の掲示板の他、奥沢交和会にもご協力を頂くことになりました。

現在世田谷区が風景づくりで進めている「界わい形成地区」指定の検討に向け取り組んでいくことが表明されました。

ミニ園遊会：総会后木陰の豊かな庭で、お座り頂き、お茶とお菓子を頂きながら歓談を予定していた恒例のミニ園遊会は、生憎の大雨で庭ではできず、お茶お菓子の交流とおこわやお菓子販売はシェア奥沢の室内で行いました。皆様の協力のお蔭でおこわやお菓子は完売しました。

心配された花苗の販売は、堀内宅の屋根付き駐車場で、担当のスタッフが雨を避けながら頑張りほぼ完売しました。駐車場の前を通りかかった地域の方が気が付き花苗を買っていきました。いつもは庭で行うため、買う機会がない通行人と花苗を通じた交流が生まれました。

当会の活動に共鳴し福島県の南会津で地域活動をされている佐藤純江さんから、手作り小物を預り出店しました。思いがけず売上は全額ご寄付頂きました。おこわやお菓子の出店に参加頂いた方、花苗の販売や交換にご協力頂いたボランティア、花苗を提供された方々に感謝申し上げます。(鈴木)

講演会報告「開かれた庭」とは？～みどりの街づくり

(7月23日宮本三郎記念美術館イベント講演会)

道路に面した空間を花や樹で緑化し、通りかかる人に見せるみどりの街づくり活動をしている奥沢、玉川園調布、成城の3グループが、ほぼ同じ時期に夫々「みどりの街づくりガイド」、「みどりと花のCASE BOOK」、「成城みどりのスタイルブック」と言う小冊子を発行しました。各グループの代表の方から、背景、目的、概要の説明がありました。又これらの活動を支援する「3軒からはじまるガーデニング支援制度」について世田谷トラストまちづくりから紹介されました。

各地域とも、失われゆくみどりを守り育てる活動を長年続けてきた努力の結晶なのでしょう。最近では住民の理解も進み、活動を受け入れる傾向が強まって来ていると言う感想が聞かれました。何と云っても地道な活動の大切さを感じました。(鈴木)

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「花とみどり」

奥沢2丁目 寺田朗子

尾山台から奥沢に引っ越して8年になります。長くお住まいの方からご覧になれば“ほんの新参者”ながらも、「奥沢のよさ」をしみじみと感じています。越して間もないころ、横道を曲がったところに看板が立っているのに気が付きました。「あら？」と立ち止まってみると、何か懐かしい思いを呼び起こす風情のお宅の写真がいくつも貼ってありました。海軍村という言葉もそこで拝見しました。家並みの雰囲気などが何か違う、と感じていましたが、独特の歴史のある街なのだと改めて知りました。

家を建てるにあたってどんな庭にするかとイメージを浮かべながら、ご近所をずいぶんと散策しました。窓の周りにかわいいバラが絡んでいるお宅、立派な大木のあるお庭、春先の香りを思わせる沈丁花の植込み、密に育っている生垣、いたるところに置かれているかわいいセージの鉢植え…最近は見ることの少なくなった「垣根の 垣根の 曲がり角」という眺めでした。そして見回りをされている貴会の皆さまのお姿に心打たれました。

我が家では数本の木は新たに植えたものですが、あとは思い出に絡むもののパッチワーク状態です。前の家から持ってきた木犀、日陰で咲くことのできなかった百日紅、父の実家から持ってきたこでまり、実家に咲いていた鈴蘭、いただいた右近桜、拾ってきたバラが4種類、寄せ植えでいただいた小さな松も目立たないように植えたのに大きくなってきています。それでもどの木や花を見てもどれにも思いが残っているものばかりです。いとおしんでいきたいと思えます。

一つ気になっていることが。昨今は建て替えられるお宅も多く見受けられますが、「雀たちのお宿」となっている葉の茂った中木が切られることを多く目にします。あの角でもこのお庭でも夕方雀たちのにぎやかなさえずりが聞こえていたのに、その「お宿」の木がなくなりました。あの子たちはどこに行ったのでしょうか？

この町がいつまでも「さざんか さざんか 咲いた道」と歌いながら歩きたくなる場所でありたいように。

「奥沢に生まれ、奥沢に育って」

奥沢1丁目 大道 和男 (聞き手 鈴木仁)

昭和の初めに奥沢1丁目に生まれ、奥沢小学校の時に学童の強制集団疎開を経験し、混乱期に中学校を都心に学び、家族助け合って事業を行いながら、地域貢献をされてきた、昭和8年生まれの御年84才ですが、お若くどう見ても70初めに見える元気な方です。

小学校6年生の時に奥沢小学校の3年生から6年生の生徒たち250人が、長野県松本市に3か所に別れ疎開したそうです。親から引き離され、お寺の本堂で昼一昼で寝起きする、今ではとても考えられない生活を余儀なくされました。冬の寒さは厳しく、又食べものも乏しく、ひもじい思いをした。その上当時のトイレは外にあり、お寺の障子に映る影は恐ろしく、寂しい毎日だったようです。

昭和19年に卒業となって帰京し、都立京橋商業学校に通うことになりました。空襲もある中、有楽町駅で下車し、勝鬨橋を渡り月島へ通ったそうです。終戦後学校は進駐軍に占領されたため、今の銀座数寄屋橋近くの泰明小学校を借り、運動場は日比谷公園と言う、2年間でした。

卒業後は親の経営する自転車の販売を手伝いました。経済の成長に伴い、原付自転車、更にはオートバイ、やがて自動車の販売を家族で進めました。

氏は長男で、妹さんと3人の弟さんがおられます。長男の立場が重かった当時、夫々に合った仕事に就ける面倒見て来られたそうです。兄弟全員健在で、大半が奥沢に住んでおられます。

民生員を務めた父上の影響で、地域への奉仕にも、取り組めました。その一つは消防団の仕事を33年間続けました。特に大晦日でも紅白歌合戦を聴いたり見たりはできなかったお仕事だったそうです。

地域の伝統を継承し、お店の所属する奥沢東通り商交会の発展に尽くし、特に奥沢交和会の活動に、東通り商交会への参加を積極的に進め、18年間副会長を務められました。現在でも奥沢交和会活動に積極的に参加する方が1丁目には多いように思います。

昭和の時代を生き抜いてきた親分肌の優しい方と言う印象を受けました。

奥沢の歴史を訪ねてXVII

奥沢史跡巡り③まちなか観光東地区コース (iii)

今回からはまちなか観光コース東地区の史跡を紹介して行く。

まずは東地区から。スタートは奥沢駅南口。ここでは商店街の紹介は省略する。

①奥沢駅前(噴水) 広場—昭和59年(1984)世田谷百景No.100に選定される。今どきにしてはミニサイズだが、音楽祭や買い物帰り等



(奥沢駅南口駅前噴水広場)

結構親しまれている。②銀座通り・弁天池跡—寿司店の南側半分。弁財天が祀られていて、湧水があった。小さい流れが東横線・目黒線の崖近くから流れ



(奥沢弁天池 [推定図])

ていたようだが、私の子どもの頃の記憶にはない。東半分に池があり、入り口の銀座通り側は赤土の小山になっていた。緑日には夜店が出ていて、かなりの人が集まっていた。中央に設置されていた虫を集める青紫の灯りが印象的であった。詳しくは2009.1.18

発行の土・街・みどり会報に載っている。

③丸山稲荷—現在の奥沢三丁目から諏訪山地区を除いた南側三分の二が、小字(コアサ)丸山と呼ばれていた。大音寺から見て小高い丸い山に見えたからだ。ちなみに九品仏川に削



(丸山稲荷)

られた沖ノ谷・鷺ノ谷との間はなだらかな斜面だったので、中丸山(小字諏訪山・赤坂丸)と呼ばれていたようだ。丸山地区の屋敷神であった。その後、丸山の住人が稲荷講を始めたが、昭和初期に止めてしまい、現在は奥沢親交会商店会と近くの人たちで、奥沢神社の神主さんをお迎えして、祀っている。詳しくは親交会のHPに書かれている。

④新奥沢駅—昭和3年池上電鉄が国分寺線(雪谷～

(私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介いたします。)

奥沢～二子玉川～国分寺)の開通を目指したが、東横線との接続並びに立体交差を目黒蒲田電鉄に邪魔され、環八と中原街道を結ぶ府道106号の立体交差が出来ず、結局、



(新奥沢駅跡 [ふるさとめぐり石標])

府道そばに臨時駅を造ったのが奥沢線の新奥沢駅。結局、昭和3年目黒蒲田電鉄(東京横浜電鉄)は奥沢～瀬田河原(二子渡)の路線接続を奥沢駅から大岡山駅に変更、昭和4年には大井町線と直通運転をした。また、直前東横線を高架で延伸、九品仏駅を自由が丘駅に呼称変更した。これで池上電鉄は国分寺線を分断され、昭和11年、目黒蒲田電鉄に併合



(奥沢駅・大岡山駅間立体交差)

され、乗客数の少なさを理由に国分寺線免許を返上、廃線にした。これらのいきさつは実際はもっと複雑で、川崎財閥の資金、目黒線に沿った田園都市構想、同時期の玉川全円耕地整理とその波及(碑衾町の耕地整理組合)、関東大震災、満州事変、日中戦争等の時代の流れがそのバックにある。東京横浜電鉄の五島慶太氏か通信大臣迄勤め上げるようになる。この話を調べるには国立公文書館に行く必要がある。歴鉄オタクとして面白く読むだけなら、XWIN II Weblog や新奥沢駅などのワードで検索をすれば見つかる。面白い話がたくさん書かれている。真偽の保証はないが、良心的に調べている。(赤松)



(大井町線線路変更)

「フラワーアレンジメント講習会に誘われて」

満井 信子

日頃、花を生け、自分なりに、楽しんでいましたが、もっとステキにアレンジ出来たら思い、講習会に参加いたしました。

今回は今回は剣山やスポンジを使わず、花材同士が支えあうアレンジの仕方を教えていただきました。思いもよらない発想に、戸惑いながらも作品を完成させ、先生から批評を頂き、あっという間でしたが、充実した時間でした。

アレンジに季節感や庭の片隅の小さな花を上手に

取り入れる事で日常生活に、何かほっとする空間が生まれる。

忘れかけていた事を思い出させて頂いた時間でもありました。

これを期に、いろいろな花をもっと身近に楽しみたいと思います。

このような地域活動を支えてくださる皆さんに感謝し、これからも活動を続けて頂きたいと思いました。



(佐藤講師による講習風景)



(各自の作品)

活動報告

●6月17日世田谷区の都市デザイン課が主導する「風景づくり交流会」に出席し、「みどりの街づくりガイド」の紹介を行いました。

●四丁目・五丁目会員のつどい：昨年四丁目の会員を中心とするつどいがスタートしました。花や樹の好きな方が多く、みどりを通じて地域の交流を勧め、「みどりの街づくりガイド」制作活動で四丁目の「開かれた庭」探しを行い、ガイドへの掲載許可取得に尽力しました。本年からはこの活動を五丁目へ広げるため、最初のつどい会合を、7月2日にお世話役を鶴原さんと松田さんで開きました。花やみどりの話は尽きませんでした。次回は10月の予定です。このように小さくても地域で交流するグループの努力に感謝します。

●「みどりの街づくりガイド」の配布：既に、奥沢交和会、世田谷区役所、奥沢まちづくりセンター、街づくりグループ、奥沢の建設会社、多くの人がある店舗に配付しました。更に奥沢1-5丁目に全戸配布を目指し、2丁目に続き1丁目の配布を終わり現在、3丁目にかかっています。暑い中3人の女性スタッフご苦労様です。

(鈴木)

会からのお知らせ

●今年のまちめぐりは、9月16日(土)(雨天の時は17日(日))に行います。今回は世田谷区の周りを廻ります。池尻大橋から目黒川崖線を歩きおしゃれな街代官山を訪ねます。集合は9時、自由が丘駅南口です(同封のチラシご参照下さい)。

●土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞご協力をお願い致します。入会のご相談は

下記へお寄せ下さい。

編集後記：猛暑が続いています。今年はまだ7月と言うのにサクラの落葉が始まっていると近所の植木好き長老が言っていました。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659

世田谷区奥沢 2-41-2 玉置敬子 3724-1077

ホームページ ; <http://tsuchimidori.net>

e-mail ; info@tsuchimidori.net